

す

く

す

く

19号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2022年度 第2号 2022. 7. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

2年が経過したコロナ禍で子どもたちの生活体験には様々な影響がありました。食事や休息、遊びといった生活場面すべてに、とえそうです。院内では感染対策上の制約のなか、“より良くするためにできること”を検討する機会が増えました。実際にお買い物に行けないけれど疑似体験できる会を開いてみよう、といったように。職員たちはいつも子どもの権利について思いを巡らせ、「今できる最善を探る」そんな活動を継続してきたように思います。

新生児期から乳幼児期の日々はかけがえのない、とり戻すことができない瞬間です。ですから「すぐできることはすぐに」が肝要です。一方、チームが価値観を共にして取り組んでいくときには「じっくりと」時間がかかります。「すぐに」と「じっくりと」のバランス感覚をもちながら子どもたちにとっての最善にこだわっていききたいものですね。

日頃より乳児院の活動にご理解とご支援を頂いている関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今後ともよろしく
副院長 石田 晃代

理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
 （「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
 子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。





こいのぼり会



5月12日、こいのぼり会を行いました。おしゃれ着に着替えて会場に入場すると、いつもと違う雰囲気の中に、緊張している子や嬉しそうに飾り付けを見ている子など様々な反応が見られました。名前を呼ばれると元気よく返事をして、こいのぼり会のスタートです。パラバルーンが登場すると、音楽に合わせて動くパラバルーンを目で追い、一緒に歌って楽しみました。“たけのこ体操”のダンスと“こいのぼり”の歌は、日頃の練習の成果もあり、上手に踊って歌うことが出来ました。こいのぼり会の後は、お部屋に戻っておやつの時間です。手作りのアンパンマンゼリーに目をキラキラさせて夢中になって食べていました。

保育士 藤塚 のあ



防災訓練



乳児院では月に一度、防災訓練を行っています。6月は、避難ハッチの使用方法を教えてください、人形を抱きかかえたまま2階から1階まで降りる訓練を行いました。

普段は階段を使用した訓練が多く、今回の避難ハッチを使用した訓練では、二人一組になり避難者が避難袋に入りしっかりと体勢を整えてから介助者が子どもを受け渡した方が安全に避難できるということや、降りる際に避難袋との摩擦により皮膚が傷ついてしまう可能性があるため、タオルケットなどで子どもたちを守った方が良いということなど、様々な気づきを得ることができました。

災害はいつ起こるかわからないものなので、今後もいざという時のためにしっかりと訓練を行い、子どもたちの安全を守っていききたいと思います。

災害対策委員会 中村 直子



日常の様子

乳児室と幼児室(Aホーム・Bホーム)の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

乳児室

乳児室には、先日寝返りが出来るようになったお友だちがいます。一度出来ると何度も寝返りをするようになり、その姿がとても微笑ましいです。他にも笑顔が増えた子や離乳食が始まった子など、日々成長する姿を間近で見られることが嬉しく感じます。全員でお散歩へ行ける日も増え、子どもたちの新たな一面を発見できることが毎日の楽しみです。



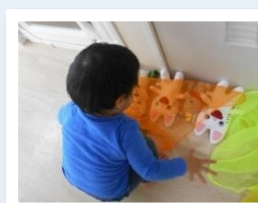
A ホーム

Aくんはブロックが大好きで集中して遊んでいます。車や滑り台を作り見せに来てくれます。難しいことがあると泣くこともありますが「やってだよ」と伝え、「(やっ)て」と言葉で伝えることが出来るようになりました。手伝いながら作りたいものが完成すると嬉しそうな笑顔を見せてくれます。



B ホーム

Bホームで次に誕生日を迎えるのはBちゃんです。誕生日まであと1カ月ほどありますが、同じホームのお友だちは、おままごとのケーキを持ってきたり、ブロックをケーキの形に組み立てたりしては、「ハッピーバースデー、Bちゃん〜!」「おめでとう〜!」と、毎日のようにお祝いをしてくれています。そんな素敵なやりとりに癒されながら、本物のケーキをみんなで食べてお祝いできる日を待ち遠しく思います。



心理士だより～「レジリエンス」の力～

「レジリエンス」の力が注目されています。レジリエンスとは、立ち直ること、回復すること、自分らしさを取り戻すことです。強さというより、しなやかさかもしれません。人は誰も、このレジリエンスの力を持っていると言われています。子どものレジリエンスに気づき、それを育てるかわりができるとういと思います。もちろん、大人自身にも、です。

レジリエンスの力を育てるのに、大切な視点を4つ紹介します。①私には〇〇が支えになってくれます。②私には〇〇という強み/特徴があります。③私は〇〇ができます/できました。④私は〇〇が好きです。この〇〇に当てはまるものをたくさん見つけましょう。自分に見つけられなくても、誰か教えてくれる人がいるはずですよ。

失敗しないこと、間違わないこと、ころばないこと、泣かないこと、怒らないこと。これらを目標にするのではなく、何かあっても柔軟にとらえ、対処して必要な時間をかけること。きっと一緒に取り組んでくれる人がいて、事態も、自分も、環境も少しずつ変わっていくことでしょう。

心理士 柴田 薫

新入職職員紹介

新たに、保育士3名が乳児院のスタッフとして加わりました！



子どもたち一人一人の気持ちに寄り添いながら、日々安全に笑顔で過ごせるような保育を行っていききたいと思います。



子どもたちが安心して生活できる環境を作り、愛情をたっぷり注いで保育をしていきたいです。



子どもたちの気持ちに寄り添い、笑顔で過ごせる毎日を提供できる保育士になりたいです。



いつもボランティアでお世話になっているハンスオン東京様より、
今回はお菓子の寄付をいただきました。



【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 看護師長 小泉

【寄付金について】当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。

詳しくは右記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 事務 竹田

「すくすく 第79号」2022.7.1 発行

発行人 / 岡尾 良一

編集委員 / 小泉 菜穂子 前田 朋子 栗野 桃子 佐々木 みらの